

平成16年3月期 第1四半期業績の概況（連結）

平成15年8月21日

上場会社名 株式会社メガチップス (コード番号：6875東証第1部)
(URL <http://www.megachips.co.jp/>)

問合せ先 代表者役職 代表取締役社長 氏名 松岡 茂樹
責任者役職 取締役執行役員システムビジネスユニット統括(兼)コーポレートプランニング統括
氏名 肥川 哲士 (TEL：(06)-6399-2884)

1. 四半期業績の概況の作成等に係る事項

売上高及び営業利益に係る会計処理の方法 : 無
の最近連結会計年度における認識の方法との相違の有無
連結及び持分法の適用範囲の異動の有無 : 有(15年3月期比 連結(除外)1社)

2. 平成16年3月期第1四半期業績の概況(平成15年4月1日～平成15年6月30日)

(1) 売上高及び営業利益

	売上高		営業利益	
	百万円	%	百万円	%
16年3月期第1四半期	4,611	-	132	-
(参考)15年3月期	29,055		1,741	

(注) 1. 売上高及び営業利益は、当該四半期までの累計値であります。

2. 四半期決算の開示は、平成16年3月期第1四半期より実施しておりますので、前年第1四半期の実績は記載しておりません。また、前年第1四半期との比較についても行っておりません。

・業績の全般的概況

当四半期におけるわが国経済は、企業収益や設備投資が輸出主導による緩やかな回復基調にあるものの、依然として厳しい雇用情勢や消費低迷が継続しており、不況色の濃い状況で推移いたしました。

また、当社が属する電子機器業界におきましても、一部デジタルテレビやデジタルカメラ等の民生用映像機器や、携帯電話の市場の拡大が見られたものの、電子機器業界全体の市場は前年比微増という状況で推移いたしました。

このような状況下におきまして、当社グループは画像・音声・通信分野のシステムLSIの開発に経営資源を集中して積極的な事業展開を行い、当社の事業基盤である顧客専用LSI(ASIC)、成長分野である特定用途向LSI(ASSP)、そして当社独自開発のシステムLSIを搭載したシステム製品の開発及び販売に注力いたしました。その結果、連結ベースでの売上高は46億1千1百万円、営業利益は1億3千2百万円となりました。

・セグメント別の概況

LSI事業

顧客専用LSI(ASIC)につきましては、ゲーム機本体や周辺機器向けのシステムLSI需要が低い水準で継続しておりますが、ゲームソフトウェア格納用LSI(カスタムマスクROM)の需要が堅調に推移したことにより、連結売上高は24億7千3百万円となりました。一方、特定用途向LSI(ASSP)につきましては、デジタルスチルカメラ向け等のLSIの需要は低調に推移したものの、第3世代携帯電話向けの画像・音声・通信処理用LSIの需要が堅調に推移したため、連結売上高は11億8千4百万円となりました。以上の結果、LSI事業全体の連結売上高は36億5千8百万円となりました。

システム事業

産業用システムにつきましては、企業の設備投資が緩やかな回復基調にあるものの、セキュリティ・モニタリング分野における設備投資の低迷が継続しており、当該分野向けのデジタル画像記録・伝送システムの需要は低調な状況が継続しております。しかしながら、セキュリティ・モニタリング分野の新製品投入効果により連結売上高は5億3千8百万円となりました。一方、民生用システムにつきましては、ネットワークカメラやリッチメディアコミュニケーション端末の販売に注力いたしましたが、連結売上高は6百万円にとどまりました。以上の結果、その他システムに分類しております株式会社メガフュージョンが独自に取り組んでおります事業を含めまして、システム事業全体の連結売上高は9億5千2百万円となりました。

(2) 当該四半期において企業集団の財政状態及び経営成績に重要な影響を与えた事象

・財政状態

当四半期において財政状態に重要な影響を与えた事象は発生しておりません。

・経営成績に重要な影響を与えた事象

当四半期において経営成績に重要な影響を与えた事象は発生しておりません。

(参考1) 四半期個別経営成績等の概況(平成15年4月1日～平成15年6月30日)

	売上高	営業利益
	百万円	百万円
16年3月期第1四半期	4,179	206

3. 平成16年3月期の業績予想(平成15年4月1日～平成16年3月31日)

平成15年5月15日に公表いたしました平成16年3月期の業績予想を下記の通り修正いたします。

【平成16年3月期連結業績予想】

(単位:百万円)

	売上高		経常利益		当期純利益	
	中間期	通期	中間期	通期	中間期	通期
前回発表予想(A)	10,000	23,000	150	900	90	500
今回発表予想(B)	10,350	21,700	170	840	20	120
増減額(B-A)	350	1,300	20	60	70	380
増減率(%)	3.5	5.7	13.3	6.7	77.8	76.0
(ご参考) 前期実績(平成15年3月期)	14,094	29,055	919	1,721	495	192

【平成16年3月期個別業績予想】

(単位:百万円)

	売上高		経常利益		当期純利益	
	中間期	通期	中間期	通期	中間期	通期
前回発表予想(A)	9,000	20,500	230	860	130	480
今回発表予想(B)	9,450	19,950	330	900	150	330
増減額(B-A)	450	550	100	40	20	150
増減率(%)	5.0	2.7	43.5	4.7	15.4	31.3
(ご参考) 前期実績(平成15年3月期)	13,046	27,172	891	1,954	508	367

・業績修正の理由

当期の当社業績において、LSI事業につきましては、ゲーム機器向けのLSI等が主要な製品である顧客専用LSI及び携帯電話、デジタルスチルカメラ向けのLSI等が主要な製品である特定用途向LSIともに需要は堅調であり、当初の連結及び個別売上高見込を達成できる見通しであります。

しかしながら、システム事業におきましては、企業の設備投資の低迷が継続する状況において、産業用システムに分類しておりますセキュリティ・モニタリング分野向けの映像記録・伝送機器等の販売が低調に推移することが予想されます。また、その他システムに分類しております、子会社である株式会社メガフュージョンが独自に取り組んでおりますリッチメディア事業ならびにオーディオオーディオ事業につきましても顧客層拡大の遅れや新製品投入時期の遅れ等により、当初見込に対して連結売上高が減少する見通しであります。

以上の状況から、売上高につきましては、中間期はLSI事業が堅調に推移することから、連結個別共に前回発表予想を上回る見通しであります。通期では引き続きLSI事業が堅調に推移するもののシステム事業の売上高減少により、連結個別共に前回発表予想を下回る見通しであります。

経常利益につきましては、売上高予想の修正に伴い中間期は連結個別共に前回発表予想を上回る見通しであります。通期では個別経常利益は前回発表予想を上回る見通しですが、連結経常利益は前回発表予想を下回る見通しであります。

また、システム事業の収益性を早期に改善するため平成15年5月15日発表の当社グループの統合ならびに再編に向けた施策を前倒しで実行することといたしました。これらに伴う一時費用として中間期に連結で約1億2千万円、個別で約5千万円、通期では連結で約4億9千万円、個別で約2億4千万円の特別損失計上を見込んでおります。また、システム事業関連の繰延税金資産の取崩しと一部繰延税金資産計上を行わないことによる税金等調整額を連結で約1億3千万円、個別で約5千万円計上する見込みであります。これら特別損失と税金等調整額

の計上に伴い、連結当期純利益は、前回発表予想を3億8千万円下回り1億2千万円、個別当期純利益は、前回発表予想を1億5千万円下回り3億3千万円になる見通しであります。

・特別損失の発生

前記のとおり、当社グループの統合ならびに再編に向け、事業の効率化及び一層の集中と選択のための施策として、

人員の効率化

人数 約40名減(予定)

退職日 平成15年9月30日(予定)

当社松山オフィスの閉鎖

閉鎖日程 平成15年12月31日(予定)

所在地 愛媛県松山市

当社大阪本社減床

不採算テーマの中止

を実施することといたしました。

当該施策実施にともなう連結ベースの特別損失額の発生見込は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	中間期	通期
人員の効率化関連	80	80
松山オフィス閉鎖関連	-	10
大阪本社減床関連	-	40
不採算テーマの中止関連	-	290
その他の	40	70
合計	120	490

・業績予想に関する注意

上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としております。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

以 上